

フェロー&マスターズ未来技術時限研究専門委員会

フェロー 江尻 正員
産業技術コンサルタント



当サイエティのフェローや研究会委員長経験者ら(マスターズと便宜的に呼称)が、互いの情報交換の場と後継世代を触発するための発表の場を設けようと、本研究専門委員会を発足させた。他の研究専門委員会のように特定の技術分野の開拓を標榜しているわけではなく、むしろ「未来技術」と総称することで何でも議論しようという特異な性格を持っている。

委員の私たちは、過去数十年の計算機科学・情報通信技術の躍進期に中核的役割を演じ、その変貌を自らの研究者人生として体験してきた。そのため科学技術の潮流を大局的に俯瞰し、次世代に必須となる技術を予測できる能力が必然的に備わってきているはずだとの想いもある。そういう「まだまだお役に立てる」との想いからこの活動をスタートし、すでに4年目を迎えている。年4回の研究会では、委員相互の情報交換に加え、「めったに聴けない話」を中核に据えたシンポジウムなどを開催しているが、その基調にはいつも「若い世代に刺激を与え、彼らをエンカレッジしたい」という願いが込められている。

今までの活動内容を以下に幾つか紹介する。まず初年度第1回研究会では、シンポジウム「ここがおかしい、日本のパターン・ビジョン関連研究」を開催し、十年後も日本が世界のリーダーとして活躍し続けるための方策を議論した。第2回目の講演会「今だから言う、私の失敗体験」では、フェロー委員に貴重な失敗談を披露していただいた。翌年度には、「がんばれニッポン、がんばれ日本の研究開発」と題し、著名研究所の所長さんらに集ってもらい、産業の先導役としての企業研究に自ら新風を吹き込んで閉塞感を吹き飛ばしていただこうと、パネル討論を実施し

たこともあった。このように当委員会は、かなりユニークでインパクトの強い活動を展開してきている。

とくに PRMU (パターン認識・メディア理解研究会)とは、今までにフェロー委員による海外活動のノウハウ講演会や新フェローによる受賞記念講演会などを共催し、これらにより相互交流がほぼ定例化してきた。PRMU の泊り込みでの会合には私たちも「押し掛け」で参加させていただき、若い人との多彩な議論を通じて私たちもまた大きな刺激を受けている。

一方、FIT (情報科学技術フォーラム)では毎年イベント企画を提案し、若手のための激励セッションを開催してきている。昨年度第11回では講演会「良い論文を書くためには、伝わる日本語文章を書くためには」を実施したが、これは FIT の諸企画の中でもっとも注目を集めたセッションとなった。さらに ACCV 2007 (アジア・コンピュータビジョン会議)でも特別セッションを共催し、日本の先駆的なビジョン研究の歴史や、企業研究者による未来技術の構想の紹介など、国際的な活動も実施して好評を博してきた。

本年度は6月に大阪で第14回研究会として特別シンポジウム「デジタル映像革命はどこまで進んだか、これから何が起ころのか」を開催し注目を集めた。引き続き今後も魅力的な企画を進め、若い世代への「応援団」として活動していきたいと考えている。

なお、現在の委員の構成は主に画像・ビジョン・音声などのメディア処理関係者であるが、実は創設当初から、その活動の輪をサイエティ全体へと次第に押し広げて行きたいとの想いがある。しかしまだ残念ながら、その飛躍へのきっかけを掴めないでいる。今後に向けた課題の一つでもある。